

2025年国際博覧会検討会の 会場計画等の検証

平成29年2月15日

第2回検討会での検証内容

- 第2回検討会では、BIEの審査項目を踏まえて**大阪府案を検証し、その課題と改善案を提示**するとともに、**会場計画策定の基本的考え方の素案を提案**する。
- 第3回検討会までに、低コスト・最大効果の国際博覧会を目指し、①**会場建設費（約1,300億円）**、敷地面積（約100ha）での**2025年国際博覧会の実現可能性を検証**するとともに、②**将来的に2025年国際博覧会の会場計画を具体化**するにあたっての**基本的考え方を提示**する。

第1回検討会

- 検証の方向性の提示

- **大阪府案の検証・課題及び改善案の提示、会場計画策定の基本的考え方（素案）の提案**

1.現状分析

- ①夢洲 ②関連事業計画

2.BIE審査主要項目検討

(1) 基本事項の検証

- ①開催場所・開催主体 ②開催期日・開場時間

(2) 実現可能性の検証

- ①入場者想定規模 ②輸送計画 ③宿泊計画

(3) 開催経費の検証

- ①開催経費 ②運営費 ③会場建設費

(4) 会場計画の考え方

- ①長期的地域整備の提案 ②会場計画策定の基本方針

第2回検討会

第3回検討会

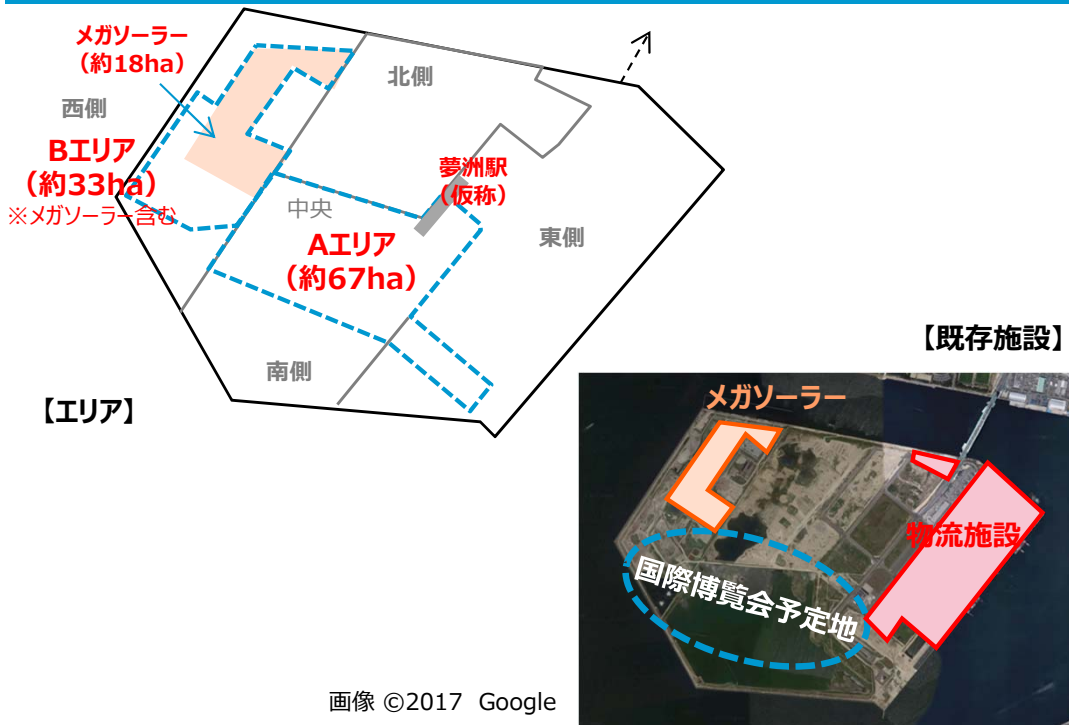
- 2025年国際博覧会誘致に関する報告書の確認

1.現状分析

1-1. 夢洲の現状と課題

- 国際博覧会会場は約100haを想定しており、**中央の埋立工事中のAエリア（約67ha）**と、**西側の廃棄物埋立処分場を活用するBエリア（約33ha）**に分かれる。Bエリアでは民間事業者のメガソーラー（約17.7ha）が稼働しているため、以降の検証では、**建設面積はAエリア+Bエリアからメガソーラーの面積を除いた約82ha**として検証する。
- **Aエリアの北側にはIRの誘致構想があり、東側は物流施設が稼働している。**また、**南側は埋立及び土地造成に時間を要する（地盤の沈下促進を含む）**ことから、**国際博覧会開催までの埋立完了は難しい。**
- 2025年国際博覧会の会場計画にあたり、候補地は更地のため、ある程度自由に会場を構想し、社会実験等を行うことができるが、**①会場候補地の用地確保のための調整・検討、②インフラ整備内容の調整・工程管理、③開場候補地周辺エリアとの調和**が必要となる。

現状



<課題>

①会場候補地の用地確保のための調整・検討

- ・西側：廃棄物埋立処分場における埋立の状況、安全対策
Bエリア内メガソーラーの利活用
- ・中央：埋立推進の状況

②インフラ整備内容の調整・工程管理

- ・鉄道整備
- ・道路整備
- ・海上アクセス
- ・航空アクセス

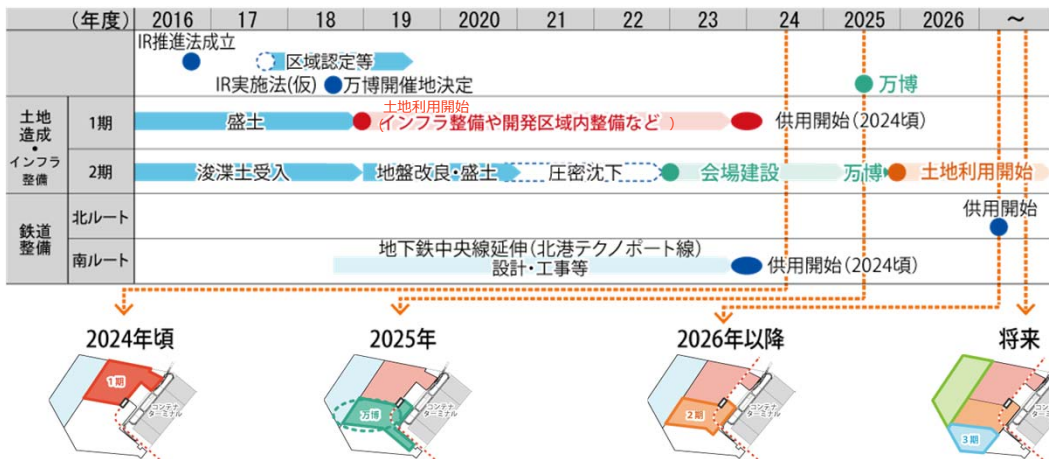
③開場候補地周辺エリアとの調和

- ・景観
- ・導線確保（物流交通との分離など）

1-2. 関連事業計画

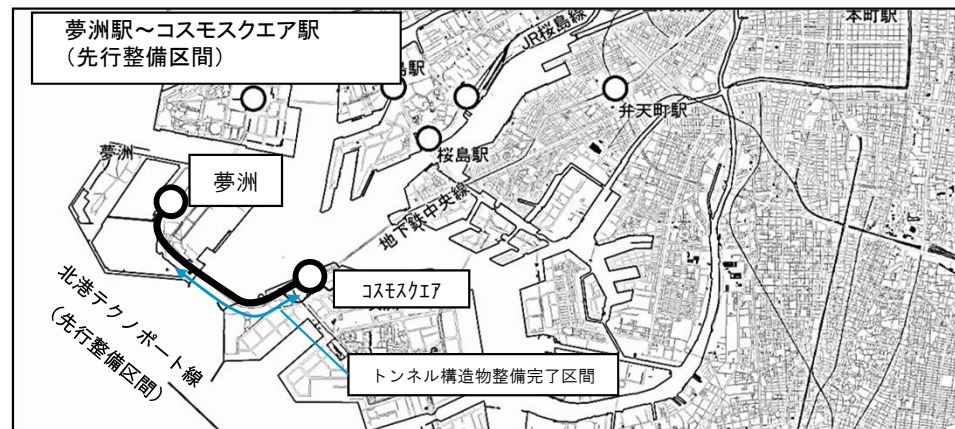
- 夢洲まちづくり構想（案）によると、**①2025年の国際博覧会開催までに第2期の埋め立てまでが完了し、②国際博覧会候補地はエンタメ・産業等のエリアとされ、その北側にはIR誘致構想がある。**
- （2025年国際博覧会あるいはIR誘致が決定した場合）北港テクノポート線建設事業を再開し、**コスモスクエア駅から夢洲駅（仮称）まで鉄道（南ルート）を延伸**し、この路線が**主要な輸送機関**となる。

夢洲まちづくり構想（案）



出典：大阪市HP（一部修正）

北港テクノポート線建設事業



出典：大阪市HP（一部修正）

● 事業再開にあたって必要な手続

- ・事業再評価（大阪市建設事業評価有識者会議）の実施
- ・工事完成期限（～H29年度）の延長手続
- ・港湾整備事業の再開

● 事業再開内容

- ・全体区間のうちコスモスクエア駅～夢洲駅（仮称）間の約3kmを先行して整備予定

2. BIE審査主要項目検討

(1) 基本事項の検証

(1) -1. 基本事項の検証（開催場所・開催主体）

- ① 2025年国際博覧会のコンセプト（案）との親和性の観点から、大阪・関西での開催は適当であり、②経済規模・貿易額の規模、③立地環境（交通、跡地利用等）の妥当性の観点からも、大阪、関西の中でも夢洲が開催場所として考えられる。
- 開催主体については、過去の例も踏まえ、①民間の創意工夫を引き出すことができ、②公益性が高い事業を行える主体として、「財団法人」が考えられる。

開催場所：夢洲（大阪・関西）

●コンセプト（案）との親和性：大阪・関西

大阪・関西は、ライフサイエンス、食、スポーツ、エンタメなど、コンセプトに係る分野の先進地域。

<地域資源>

- ・ライフサイエンス：北大阪バイオクラスター、京都大学iPS細胞研究所 等
- ・食：お好み焼き、京料理 等
- ・スポーツ：ラグビーワールドカップ2019、関西ワールドマスタースゲームズ2021 等
- ・エンタメ：文楽、お笑い 等

●経済規模・貿易額規模

- ・近畿ブロック総生産額：7,926億ドル
参考）トルコ8,223億ドル。スイス6,854億ドル
出典：内閣府経済社会総合研究所「平成25年度県民経済計算について」
- ・近畿圏貿易額：輸出 14.8兆円／輸入 13兆円
出典：大阪税関「平成28年分近畿圏貿易概況・速報」

●立地環境の妥当性：夢洲

大阪、関西の中でも、夢洲は、一定の面積を確保でき、交通アクセスが良好で、既存の都市機能との接続に優れ、かつ土地全体の跡地利用が検討されている地域。

- ・都市機能：大阪市内
- ・跡地利用：夢洲まちづくり構想
- ・会場面積：約100ha

- ・交通アクセス：関西国際空港／伊丹空港／神戸空港
- 海外：世界67都市への就航（2016年冬期）
- 国内：国内29都市への就航（2016年冬期）

開催主体

●国際博覧会の事業運営に求められる要素

- ・適切な事業運営の必要性
→効率的かつ創造性に富む事業運営
- ・国家事業的性質
→公益性を担保した事業運営

●過去に日本で開催した国際博覧会の開催主体

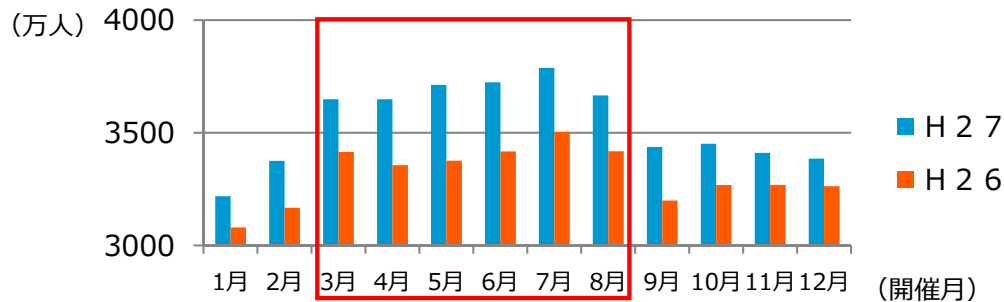
名称	開催主体
日本万国博覧会	（財団法人）日本万国博覧会協会
沖縄国際海洋博覧会	（財団法人）沖縄国際海洋博覧会協会
国際科学技術博覧会	（財団法人）国際科学技術博覧会協会
国際花と緑の博覧会	（財団法人）国際花と緑の博覧会協会
2005年日本国際博覧会	（財団法人）2005年日本国際博覧会協会

(1) -2. 基本事項の検証（開催期間・開場時間）

- 開催期間は、集客の観点から①**国内外の観光客等の来場が多く見込め**、光熱費抑制や来場者の過ごしやすさの観点から②**寒暖差が少なく温暖な6ヶ月間**を選定すると、**5月3日(土)～11月3日(月)**（開会日・閉会日が休日、全185日間）が考えられる。
- 営業時間については、交通アクセスや過去博の開場時間を参考に設定するが、**より多くの方に来場していただくために、早朝や深夜への開場時間延長や一部24時間開催の実施などが考えられる。**

開催期間の妥当性

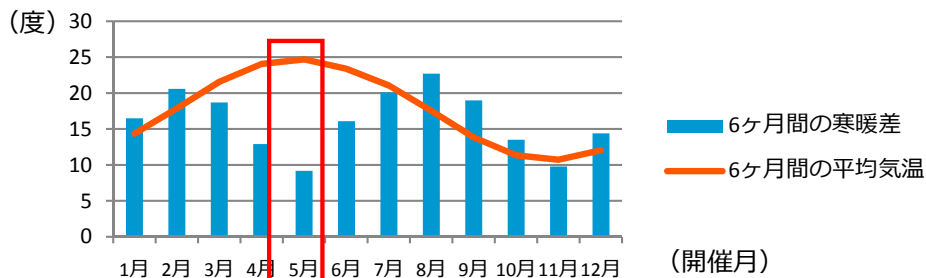
①大阪府及び隣接府県の開催月から6ヶ月間の延べ宿泊者数
3月～8月のいずれかの月から開催すると、
多くの国内外の観光客等の来場が見込まれる。



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」

②開催月から6ヶ月間の寒暖差・平均気温

5月から開催すると、6ヶ月間の寒暖差が小さく、気候も比較的温暖。



参考：気象庁HP「大阪 日平均気温の月平均値」2016年をもとに計算

※6ヶ月間の寒暖差：各月の平均気温をもとに、高い月と低い月の温度差を計算。

開場時間の妥当性

コアタイムは愛知博の開場時間（9：00～22：00）をベースに検討しながら、電車のアクセスがある早朝・深夜の開場時間延長も検討する。

	コスモスクエア—関西国際空港	コスモスクエア—梅田
電車始発	5:45発（関西国際空港） 6:56着（コスモスクエア）	5:15発（梅田） 5:46着（コスモスクエア）
電車終電	22:37発（コスモスクエア） 23:45着（関西国際空港）	23:57発（コスモスクエア） 24:19着（梅田）
車	約40分	約25分

※夢洲駅（仮称）の代わりにコスモスクエア駅でアクセスを検証。

※飛行機：関西国際空港における国際線は、概ね6時～26時程度で発着。

新たな取り組み案

●国内外キャンペーンの実施

- 4月下旬のプレイベント開催による気運の醸成。

●営業時間拡大による入場者増加

※ただし運営費との兼ね合いも要検討。

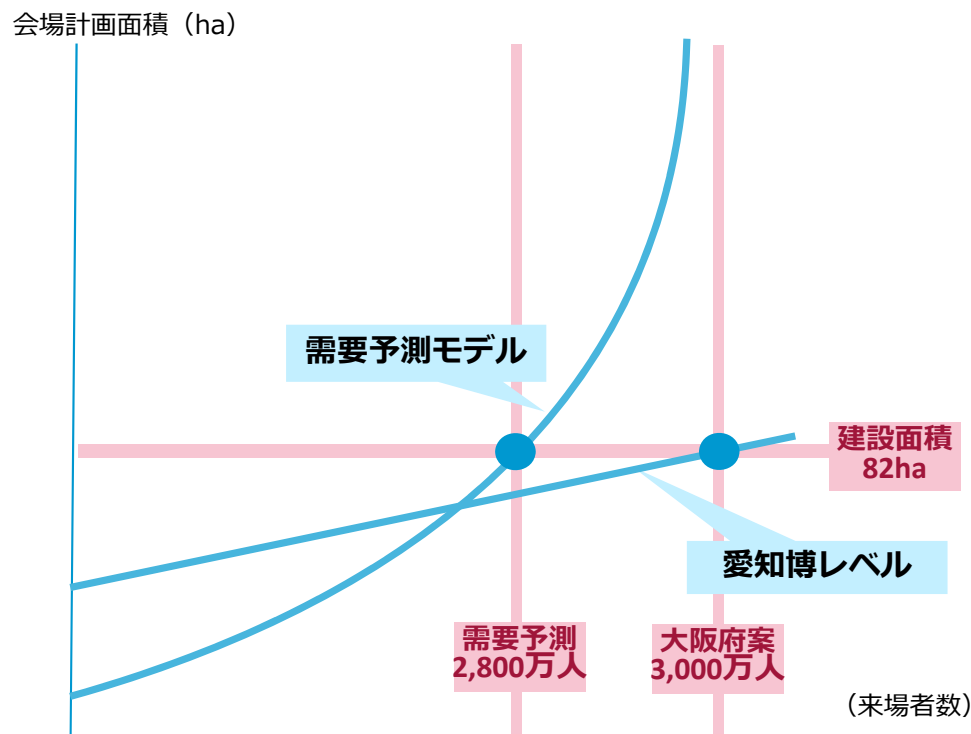
- 早朝や深夜への開場時間延長。
- 期間や営業施設を限定した24時間開催の検討。

(2) 実現可能性の検証

(2) -1. 入場者想定規模の検証

- 来場者が滞留する建設面積を基準に愛知博と同レベルの混雑度で入場者数を検証すると、大阪府案より求めた**建設面積約82haでは来場者約3,000万人となる。3,000万人の来場者を受け入れた場合、愛知博並みの混雑度、サービスレベル※になると考えられる。** ※愛知博では、一部パビリオンは8時間待ち／入場制限を実施
- 建設面積、投資額、周辺人口圏、会期日数をもとに、過去博覧会の実績から分析すると、国内からの**来場需要予測は約2,470万人**となる。外国からの入場者数は、訪日外国人の増加傾向を踏まえ、**来場需要予測は約350万人**となる。**来場需要予測は合計約2,820万人**となる。よって入場者想定規模を**約2,800万人～約3,000万人**として各検討を行う。
- より多くの来場者数を目指すために、国内外のキャンペーンとともに、会場計画面積の拡大、**建築物の積層化、来場者の分散、来場者の考え方の変更、展示コンテンツの魅力増大等**が考えられる。なお、愛知博時の混雑度を前提に置いたが、来場者により快適に過ごして貰うべく、一層の混雑緩和策も求められる。

検証結果



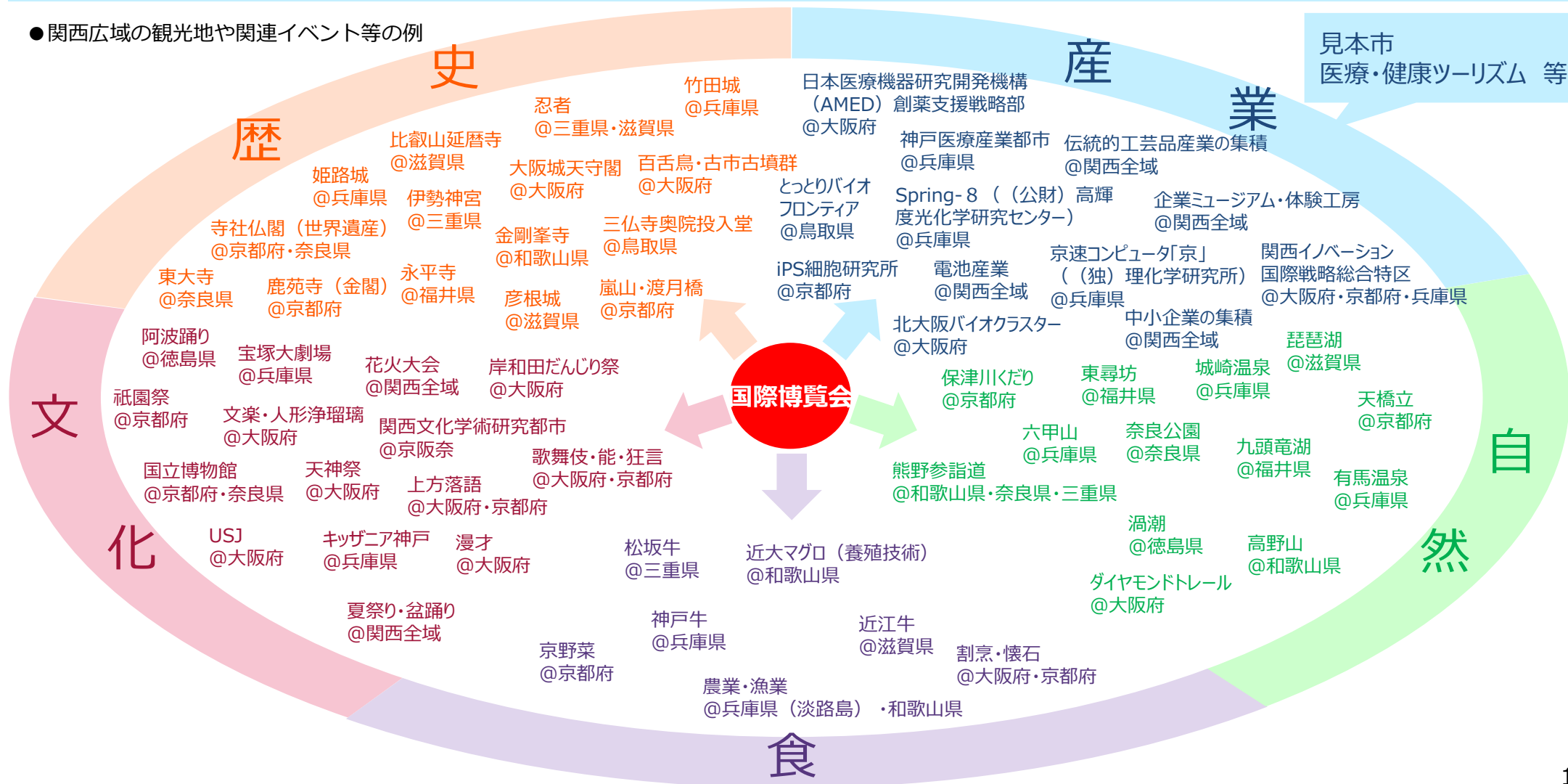
改善案

- **国内外の各種キャンペーン**
例：関西広域の観光地や関連イベント等との連携。
- **会場キャパシティの拡大**
 - 会場計画面積の拡大。
 - 建築物の積層化。
- **来場者の分散**
 - 需要分散 例) 入れ替え制等の各種チケット。
 - 導線効率化 例) 設計の工夫。
- **来場者の考え方を変更**
 - 実際に来場する参加者+バーチャルでの参加者という形で国際博覧会への来場者の考え方を拡大する。
 - 例：VR等の新しいメディアを通じた国際博覧会コンテンツの海外を含めた幅広い提供。
- **新たな技術革新による混雑緩和**

(2) -2. 関西広域の観光地や関連イベント等との連携について

- **国際博覧会会場において関西各地の観光地や関連イベント等の情報を紹介**すると共に、例えば現地へのチケットをその場で発券するなどして、**来場者が関西全域に旅行する導線を構築**することで、開催地のみならず、日本各地を訪れる観光客が増大。
- 国際博覧会開催を契機に関西各地が観光資源を磨き、産業集積を進めることで、**関西広域の活性化**も期待される。

● 関西広域の観光地や関連イベント等の例



(2) -3. 輸送計画の検証

- 3,000万人の輸送計画を検証すると、地下鉄輸送を最大限活用したとしても、大阪府の**貸し切りバス登録台数の半分程度のシャトルバスが必要になる**などの課題もあるため、**多様なアクセス手段の確保を検討する必要**がある。
- IR関連の車両が加わることで、夢舞大橋、夢咲トンネルの渋滞問題が発生する可能性もある。

入場者数ごとの輸送能力の検証結果

● 検証にあたっての想定

- 過去の実績から1日来場者数を30万人と想定。
- 交通手段ごとの分担率は、条件等が類似する大阪花博を元に設定。
- 地下鉄中央線は夢洲までの延伸が完了しており、運行間隔3分、6両編成、乗車率199%*
- 此花大橋と夢舞大橋は6車線に拡幅（現4車線）
※国内トップレベルの乗車率（東京メトロ東西線の木場～門前仲町間）を設定



● 検証結果

- シャトルバス必要台数は大阪バス協登録台数1,286台に対し大きな割合。

	3,000万人	2,800万人
必要シャトルバス台数	692台	617台
混雑度※	夢咲トンネル1.14 夢舞大橋1.14	夢咲トンネル1.07 夢舞大橋1.07

※日当りの道路交通容量に対する交通量の割合。1.25以下だと、ピーク時1～2時間の渋滞にとどまるといわれている

駐車場容量の検証結果

1 日来場者数を収容可能な台数を算定。

	3,000万人	2,800万人
①必要マス数	自家用 約18,000台 貸切バス 約1,000台	約17,000台 約1,000台
②必要面積	66ha	61ha
③府案との差	1ha	-4ha

府案：自家用54ha、貸切バス用11ha（合計65ha）

改善案

- 団体バスの駐車場は、アクセス交通削減及びシャトルバス低減のため会場直近に確保。
- 駐車場予約システムの導入。
- 海上アクセス（咲洲、舞洲からのシャトルシップ）や航空アクセス（ヘリコプターなど）の導入。
- 自動走行システムの導入による道路の有効活用等。
- 開催期間の時差通勤。

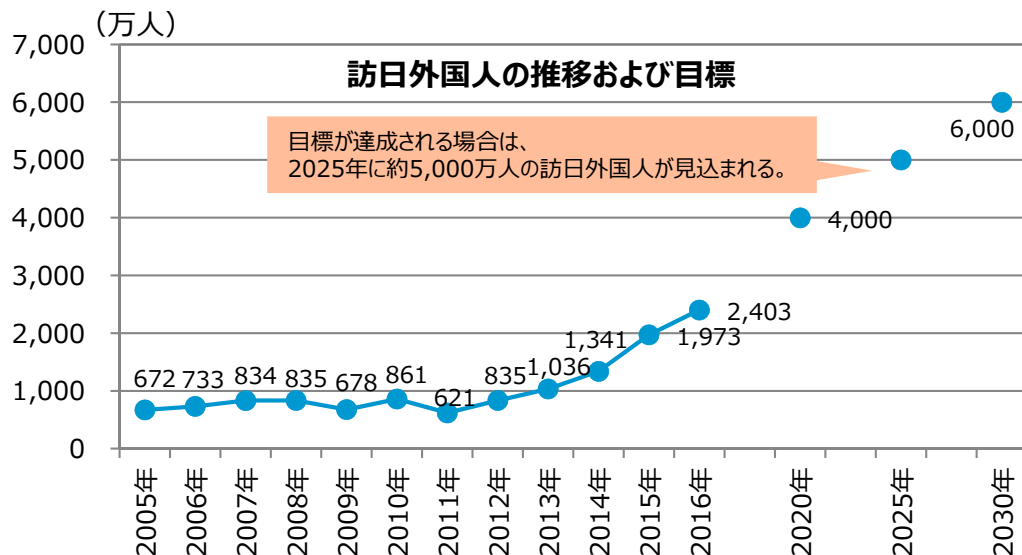
(2) -4. 宿泊計画の検証

- **訪日外国人の増加や特定の宿泊施設への集中等により、宿泊施設不足に陥る可能性**があるため、それを**緩和する工夫**が必要である。
- 特に、訪日外国人の増加傾向は今後も持続することが予想されることから、宿泊受け入れ体制の整備は急務である。

宿泊計画の検証

- 府案では**ピーク時宿泊予定者数（98,000人）**が現在の近畿2府4県の**空き室定員（117,000人）**を下回るため対応可能。また、スタッフおよび参加国の宿舎は現有ストックで対応する。
- (2)-1での来場需要予測（国内2470万人、訪日外国人350万人）を元にピーク時宿泊予定者数を算出したところ、107,000人となり、対応可能と考えられる。

- 参考：訪日外国人の推移および将来目標



出典：日本政府観光局・訪日外国人人数及び政府目標から作成

<推測される課題>

- 特定の宿泊施設への予約集中や宿泊者数の日ごとの変動により不足が生じる可能性がある。

改善案

- 訪日外国人増加を見込んだホテル新設の動きを一層促進。
- 空き家等の民泊への活用。
- 隣接する咲洲に停泊した船舶を宿泊施設として活用。
- 宿泊施設空室情報の提供。

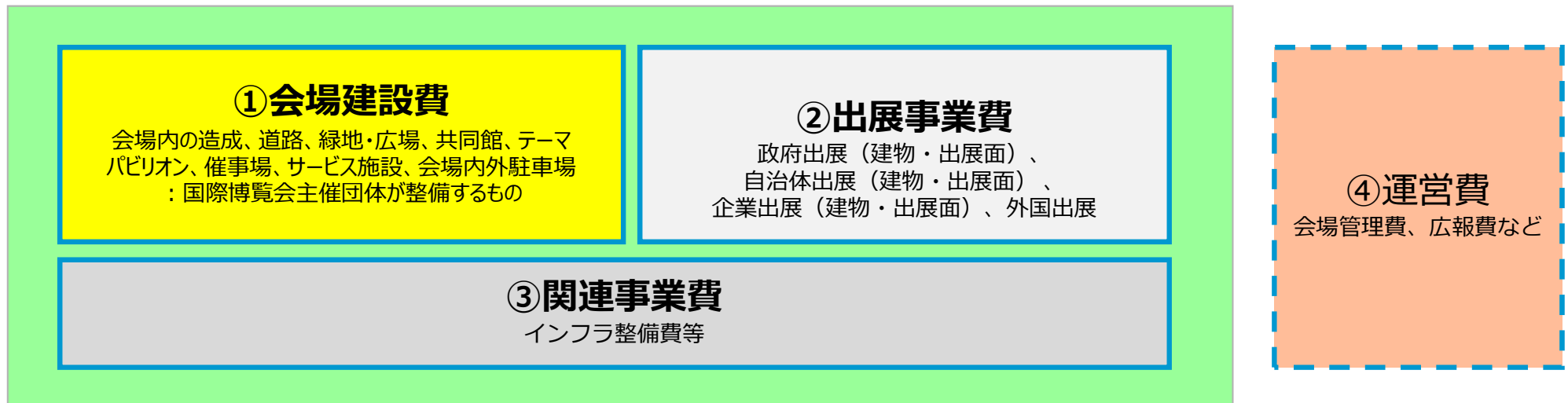
(3) 開催経費等の検証

(3) -1. 開催経費等のスコープ

- 国際博覧会の主な開催経費等は、

①会場建設費、②出展事業費、③関連事業費、④運営費 の4つ。

- 愛知博時の施設整備費構成



開催経費の主な内訳（府案を基にした、2025年国際博覧会の考え方）

<ハード経費>

- ①会場建設費は、**国・自治体・民間が拠出**。ただし、先進国外国館パビリオンの建設費用は自己負担。
- ②出展事業費は**出展者が自己負担**。
- ③関連事業費（鉄道整備、道路整備、埋立関連など）の**負担については、自治体を中心に今後調整**※。

<ソフト経費>

- ④運営費は**入場料収入等**でまかなう。

※ 関連事業費には、夢洲まちづくりに係る事業と国際博覧会関連事業がある。このうち、国際博覧会開催のために必要となるものについては、府市折半を基本とする。
なお、夢洲における I R を含む国際観光拠点形成の進捗状況に応じ、別途整理の上、民間事業者に負担を求めることを含め、府市で協議するものとする。

(3) -2. 運営費の検証

- 専門家の分析によると、前提条件を変更（愛知博において万博会場173haのうち、人が入るエリアだけを会場面積（約60ha）として、そのエリアのサービスを前提）して運営費を検証した場合、**府案より費用が増加する可能性**がある。
- 仮に増加が発生した場合は、**収入増加および支出効率化の仕組みの検討**が必要となる。

現状分析

● 支出

単位：億円

	大阪府案 3,000万人 100ha	検証内容（大阪府修正案）	
		3,000万人 82ha	2,800万人 82ha
事業費	510	580	560
管理費	150	150	150
広告宣伝費	50	60	60
その他	30	40	30
合計	740	830	800

※大阪府案修正案は、それぞれの支出に対して、愛知博の実績値に対して、来場者比、面積比を用いて各費目を修正した案である。
デフレター0.944として算定。

<費用増加の可能性のある事項>

- 事業費では、愛知博を参考にして対象面積を過大に評価しているため、費用増加が想定される。※愛知博BIE申請面積（173ha）はその多くが人が入らないエリア（110ha）であり計上対象外。
事業費のうち警備員、清掃、アテンダント要員
愛知博面積を約60haに修正：増加額70億円（3,000万人・82haの場合）
- 広告宣伝費は愛知博と同レベルの費用計上であり、来場者数に比した額が必要であると想定される。
来場比に変更：10億円増加（3,000万人の場合）

改善案

- 入場券の価格について要検討。
- 収入増加のため、夜間チケット（ナイトチケット）などの多様な入場モデルの検討。
- 固定費としての観客サービス費の低減を目指し、サービスロボットの導入などを図る。
- 会場内輸送事業や企画イベントなどへの民間資本の導入の検討。
例：会場全体に“動く歩道”などのバリアフリー、介護システムなどの実証導入の検討。

(3) -3. 会場建設費の検証（検証の方向性）

● 府案における算出方法

- ・ 土地利用、施設種類ごとに規模×単価で建設費を積み上げ。
- ・ 規模は、ミラノ博を参考に100haに換算。
- ・ 単価は、実勢単価もしくは愛知博実績を採用。



● 検証の方向性

- ・ 規模については、現場制約条件及びこれまでの検証結果を加味して、適正規模を検証。
- ・ 単価については、単価に含まれる施設、項目の確認。
- ・ 計上漏れの施設がないかを検証。

(3) -4. 会場建設費の検証（規模について）

- 府案では、会場面積を全体100ha、会場60ha、公園緑地40haと設定。
- Aエリアの約67haとBエリアからメガソーラーを除いた約15haを足し合わせた**約82haを全体建設面積**とし、面積の減少分は公園・緑地面積を減じることとし、検証をおこなう。
- 愛知博の面積をもとに博覧会展示に必要な施設を検証した場合、ミラノ博を参考とした府案では**エントランスエリア、管理サービス施設面積が小さく、通路、施設用地が大きく計上されている。**

府案における試算の根拠データ（面積）

	主催工事対象面積 (ha)			主催者設置建物 (床面積ha)		
	府案	変更案	愛知博		府案	愛知博
全体 (会場)	100	82	60	共同館	2.15	2.5
通路	20.9	20.9	16.6	テーマパビリオン	5.9	2.3
公園・緑地	40.6	15.1	13.0	催事場	1.3	1.2
施設用地	34.5	34.5	19.4	管理サービス施設	4.2	3.5
エントランス	2.0	9.5	9.5	レストラン		1.6
会場内駐車場 (管理用)	2.0	2.0	1.4	市民参加		0.5
域外駐車場	65	66	64	その他		1.4

※愛知博面積（60ha）は森林面積を除いた面積

【エリア】



<課題>

- エントランス面積が不足する可能性がある。
 (府案2.0ha・愛知博9.5ha)
 ※愛知博面積でも面積が足りずアーリーオープンを実施
- 管理サービス施設等が不足する可能性がある。
 ※府案4.2ha・愛知博7.0ha
- 実際の万博会場エリアで施設配置し、検証する必要がある。

改善案

- 会場内面積配分の検討（エントランスエリア、管理サービス施設等の面積の拡大）
- 施設配置の結果、会場面積の不足が懸念される場合は、施設の積層化、共同館導入による展示施設の省スペース化などの検討が考えられる。

(3) -5. 会場建設費の検証（単価・項目の検証）

- 会場建設費の算定に含まれる施設は以下のとおり。
- 府案では、**会場内輸送費と会場演出費の発生が想定されていない。**

単価参照元（愛知博実績）に含まれる施設

	参照元において含まれる施設
基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 土木造成 ● 舗装工事 ● 緑地修景
基盤投資整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 電気給排水 ● 情報工事
駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ● エントランス工事 ● バス乗降所 ● タクシー乗降所 ● 駐車場
パビリオン施設	<ul style="list-style-type: none"> ● 催事場 ● 共同館 ● テーマパビリオン
管理サービス施設	<ul style="list-style-type: none"> ● 管理施設 ● 飲食、物販

<課題>

- 府案は管理サービス施設の面積が少なく、建設費の想定が不足している。その分、パビリオン施設の建設費が床面積に比べ高めに想定されている。
- 会場内輸送が想定されていない。
- 会場内における演出およびサインなどが想定されていない。

改善案

- 営業施設規模の変更。
- 会場内演出等の適正費用を計上。
- パビリオンの積算単価を愛知博等の水準と適合。

(3) -6. 会場建設費の検証（積算結果、確認事項）

- 専門家が会場規模・単価の検証を踏まえて積算したところ、3,000万人規模の国際博覧会を開催するために基本的に必要となる会場施設の整備について、**約1,300億円程度の会場建設費で実施可能**という結果になった。
- ただし、将来的に、具体的な会場計画を考える上では、**会場内輸送、水上利用、先進国用のパビリオン提供、積層化など**が必要も含め検討の可能性がある。検討の結果として会場建設費が上振れする可能性にも留意しつつ、費用の管理を徹底することが必要。

会場費の積算

単位：億円

	府案		検証における変更内容	
	3,000万人 100ha	3,000万人 82ha	2,800万人 82ha	変更内容
基盤整備	230	130	130	メガソーラー面積不算入による緑地面積減
基盤設備整備	280	285	285	
駐車場	110	171	165	エントランス工事費の増加
パビリオン施設 サービス施設	560	503	503	パビリオン施設の 建築単価減 サービス施設の増加
会場内演出	0	50	50	設計費込
その他	120	108	107	
合計	1,300	1,247	1,240	

分析結果

- サービス施設面積および駐車场面積の拡充による会場費増加が想定されるが、緑地の減少により、建設費の低減となる。会場内演出を計上すると約1,300億円程度となる。

<今後、必要性も含め検討の可能性のある事項>

①会場内輸送

愛知博レベルの場内輸送（IMTS、シャトルバス等）と同等の会場内輸送施設を導入した場合、**約20億円**

②国際博覧会候補地の南側の水上利用

実施内容によって変動するため算定は難しい。
活用方法により費用変動

③先進国用のパビリオン建設

愛知博レベルの公式参加国の躯体工事費用を支出した場合、**約120億円**
※愛知博ではほぼすべての公式参加国（120カ国）に対してパビリオン施設を提供

④積層化 ※複数階の建物を建設

会場内施設の積層化を行った場合、**パビリオン施設建設費の約30%増**

(4) 会場計画の考え方

(4) -1. 長期的地域整備（跡地利用例・施設利用例）

- 国際博覧会の内容との連続性や夢洲まちづくり構想（案）との整合性を踏まえると、スポーツアクティビティ施設やコンベンションセンターなどに、国際博覧会レガシー施設としての利用が考えられる。

2025年国際博覧会のテーマなど

【テーマ（案）】

- いのちを支える社会の創造 ●共に輝く生命、輝き続ける地球
- 人類の進歩と幸福の再考 ●未来社会をどう生きるか

【サブテーマの構成要素】

- 科学技術 ●多様な文化、思想 ●交流・対話、相互理解
- 健やかな ●多様性、思いやりのある、調和的な、寛容な
- 持続可能な ●生き方 ●経済・社会システム

【施設・事業の展開イメージ（例）】

- 無我夢中・元気になる（好奇心を刺激、並ばない・疲れない、）
- 参加の概念を超える（VR等により来場できない人にコンテンツ提供）
- 不完全を楽しむ（社会実験の推進）

夢洲まちづくり構想（案）

【拠点形成のための都市機能】

- 大阪・関西・日本観光の要となる独創性に富む国際的エンターテインメント拠点形成
- 新しいビジネスにつながる技術やノウハウを世界第一級のMICE拠点を中心にショーケース化し、国内外に発信
- 健康で活き活きとした生活をエンジョイできる革新的な技術などの創出と体験

【まちづくりの方針】

- 世界で存在感を発揮するまちづくり
- 確かな技術に支えられたスマートなまちづくり
- 地球・自然環境共生とスマート技術の融合による先進的で快適な環境形成
- アーティストックなデザイン、上質で快適な空間形成

【支えるしくみ】

- 24時間ホスピタリティと安心感に包まれるまちづくり
- 民が主役のまちづくり

国際博覧会のテーマを踏まえ、夢洲まちづくり構想にも整合した跡地利用例・施設利用例

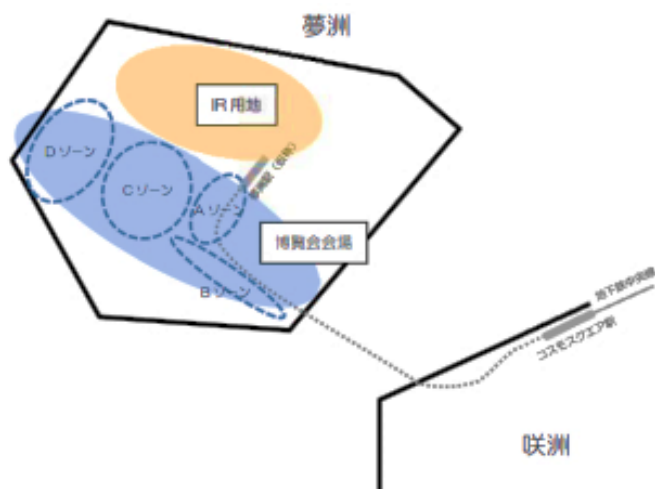
JAPAN ENTERTAINMENT（エンタメ）	BUSINESS MODEL SHOWCASE（産業ビジネス）	ACTIVE LIFE CREATION（未来の生き方）
<ul style="list-style-type: none"> ・保養型・療養型ホテル ・健康体験型エンターテインメント施設 ・雄大な自然環境を実現する世界最大の植物園など 	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア有数の展示面積を有するコンベンションセンター ・最先端教育機関・施設の誘致 ・介護ロボット技術などのショーケースの実現など 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的なハンディを感じさせないスポーツアクティビティ施設（例：ゆるスポ） ・人工生態系の巨大実験施設 ・最先端技術を活かした医療ツーリズムの実現など

(4) -2. 会場計画の考え方

- 府案は、現場条件や跡地利用のあり方およびテーマに配慮している。しかし、「夢洲のどのエリアに何をどのように配置するのか」「国際博覧会後の街の未来」など、**未確定事項が多いため、抽象的表現**に留まっている。
- 会場計画策定にあたっては、上記に加え、容量面の制約など実現可能性に配慮するとともに、開催地に選定されるためには**メッセージ性**が必要となる。

府案

- 夢洲まちづくり構想の進展状況を踏まえ、区域設定や利用計画を検討
- 快適な環境創出のため、緑豊かな施設整備、公園緑地の配置
- 周辺の景観との関係に配慮した計画
- 健康増進のためのアクティブデザインによる施設整備

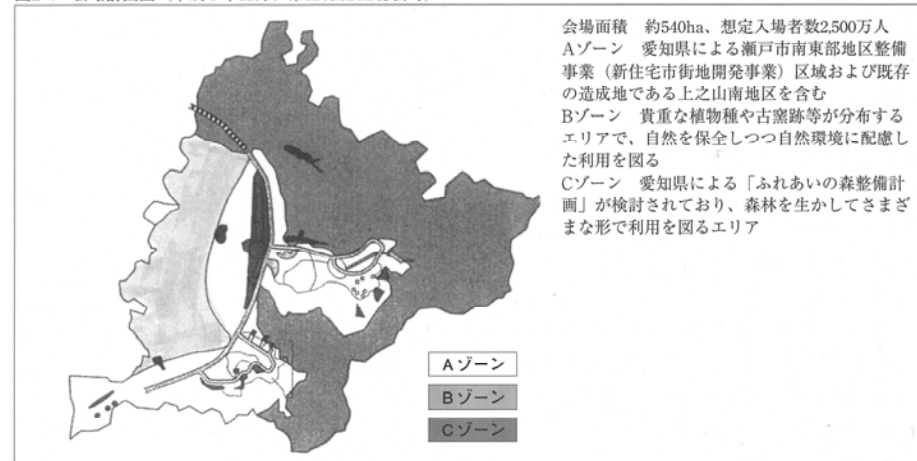


出典：「2025日本万国博覧会」基本構想（府案）大阪府

愛知博

- 限られた造成地を最大限活用し、自然をなるべく保全
- 森林の環境を活かし、多くの人々に森を体感してもらう
- 地形を活かし、周囲の自然と調和した建築
- CO2排出量の大幅低減
- ゼロエミッションを実感できる国際博

図2-4 会場計画図（平成8年12月、第120回BIE総会時）



会場面積 約540ha、想定入場者数2,500万人
Aゾーン 愛知県による瀬戸市南東部地区整備事業（新住宅市街地開発事業）区域および既存の造成地である上之山南地区を含む
Bゾーン 貴重な植物種や古窯跡等が分布するエリアで、自然を保全しつつ自然環境に配慮した利用を図る
Cゾーン 愛知県による「ふれあいの森整備計画」が検討されており、森林を生かしてさまざまな形で利用を図るエリア

出典：2005日本国際博覧会公式記録

(4) -3. 会場計画策定にあたって

- 会場計画策定にあたっては、例えば以下のような「**基本的考え方**」を定める必要があるのではないか？
 - ・ 人工島の特徴を生かし、**眺望や周辺の開発計画との関係**を考慮する
 - ・ 待ち時間ゼロ・移動時間の短縮、緑あふれるレストスペースなど、**来場者へのホスピタリティ**を確保する
 - ・ 様々な国や地域の参加者が一つの場に集まることを活用して、**人と人の活発な交流を促す設計**をおこなう
 - ・ 運動やリラクゼーションのスペースを確保し、“**心身ともに元気になる国際博覧会**”を目指す
 - ・ 最先端の技術、アイデアを実践する**社会実験の場**を提供する
 - ・ デザイン参画やマイクロファンディングなど、**市民等とともに作る博覧会**を目指す
 - ・ 省エネルギー・新エネルギーの積極的導入により、CO2の排出量を大幅に低減する